

平和と命の大切さ学ぶ 竜北東小で平和学習授業

6月13日、竜北東小学校において、戦争体験談を通して平和や命の大切さを学ぶことを目的に、平和学習授業が行われました。

児童らは高・低学年に分かれ、山下武さん(町)、長尾欣子さん(北鹿野)のお二人の戦争体験を聞きました。山下さんは戦時中の教育や特攻隊として亡くなった兄の話、長尾さんは「ラミーと呼ばれる繊維植物を供出するため皮を剥いだ体験などを話され、児童らは真剣に聞いていました。児童代表の橋口怜衣さん(法道寺)は「戦争を体験した皆さんの思いを受け止め、平和な世の中を守っていきます」とお礼を述べました。



▲体験談を話す長尾さん(右)

大学生活新たにスタート ふれあい大学開講式

6月26日、氷川町文化センターにおいて、平成27年度ふれあい大学開講式が行われました。

ふれあい大学は、高齢者の生きがいと豊かな社会生活を築くことを目的とした講座で、バスハイクや体育祭を含む計10回を予定しています。記念公演では、玉名で活動するアマチュア劇団と人気お笑いコンビ「もっこすファイヤー」のコラボレーションがある「よしもと玉名イチゴ劇団」のステージを鑑賞しました。公演では笑いが溢れ、学級長の直江雅志さん(下宮)は「久々に熊本弁の劇を見ることができて楽しかったです」と謝辞を述べました。



▲笑いが溢れたステージ公演

もち米の学校開校 もち米の学校で田植え

6月28日、もち米の学校が行われ、一般参加者とターナ保育園園児ら約110人の参加がありました。

これは、ひかわツーリズムクラブが毎年行っているもので、田植えなどの農業体験を通して「農業への理解」と「食の大切さ」を知ってもらうことを目的としています。道の駅「竜北」裏の圃場で行われた田植えでは、園児らは田んぼの感触に驚く表情を見せながらもインストラクターの指導を受けながら、一つ一つ丁寧に苗を植えました。また、昼食ではもち米を使った料理が振る舞われ、町特産品に触れる一日となりました。



▲田んぼの感触にびっくり!

公平化目指し税徴収強化へ 熊本県と税の併任徴収協定を締結

7月1日、役場庁議室において、氷川町と熊本県による税の併任徴収協定の締結が行われ、町長から熊本県県南広域本部職員9人に対して辞令が交付されました。

町と県が協力し、個人住民税や他の町税の徴収と徴収技術の向上を図ることを目的としています。今後は、町が行う税徴収業務の強化と共に、熊本県県南広域本部職員が市町村職員の身分で、差し押さえや公売などの業務、町の徴収業務内容に関するアドバイスを行う、併任徴収の取り組みを行っていきます。



▲滞納減少を期待し辞令交付

ヒマワリでいっぱい咲いたよ ヒマワリでフラワーデザイン

7月2日、竜北東小学校において、花育活動の一環で育てたヒマワリを使ったフラワーデザインが行われました。

5月に種を植えたヒマワリは、児童らの水やりや草取りなどの頑張りによって、色鮮やかなオレンジ色に元気に成長。この日の朝、花き協会八代支部の皆さんによって収穫され、児童らに手渡されました。

児童らはフラワーデザインの先生の指導で、ヒマワリの葉や茎を切り、配置を考えながら思い思いに飾り付け、作品を完成させました。よりきれいな姿となったヒマワリは家族にプレゼントされました。



▲きれいに色付いたヒマワリを飾り付ける児童

卓球で交流深める 氷川町ふれあい卓球大会

7月5日、竜北体育センターにおいて、第9回氷川町ふれあい卓球大会(氷川卓球クラブ主催)が行われ、中学生を含む初心者から経験者まで35人の参加がありました。

ダブルス形式で行われた試合では、好プレーや熱戦の連続に盛り上がりを見せ、世代を超えた交流を深めることができました。

- 【大会結果】
- ・Aクラス 優勝 平逸郎(町)
 - 清田智加子(今)
 - ・Bクラス 優勝 山下良一(法道寺)
 - 小島洋子(新村北)



▲交流深め、笑顔で集合写真

事故の無い夏を祈って 水難事故防止祈願祭

7月10日、熊野座神社(立神地区)において、水難事故防止祈願祭が行われ、四宮和明観光物産協会会長をはじめ約20人が出席しました。

祈願祭にあたり、四宮会長は「我々は自然の恐ろしさも痛感している。事故防止を祈願し、安心して立神峡を満喫してもらいたい」とあいさつ。神事では神職による清祓の儀(きよはらいのぎ)が行われた後、事故防止を祈願し、関係者らにより玉串が捧げられました。

またこの日は、鏡消防署職員による河川増水時の水面救助訓練も行われ、隊員の頼もしい姿が注目を集めました。



▲神職による清祓の儀

特産吉野梨出荷開始 吉野梨(幸水)初選果

7月14日、吉野果実選果場において、吉野梨(幸水)の初選果が行われ、今年産梨のシーズンがスタートしました。

今年の選果は、例年よりも5日ほど早く、この日は生産者より持ち込まれた幸水約400kgが全国に向けて出荷されました。今後、豊水、あきづき、新高と10月中旬ごろまで出荷が続く。9月には、12回目となる台湾輸出も計画されています。

J Aやつしる竜北果樹部会梨部の高野裕介部長(中大野)は「9月には梨マラソン大会も開催されます。特産の吉野梨をぜひ食べてください。」と話されました。



▲一つ一つ丁寧に選果